



ヘルパンギーナについて

ヘルパンギーナとは、発熱とともに、のどに痛みと水疱（すいほう）が現れる「夏かぜ」の一種です。乳幼児を中心に、主に夏に流行します。感染症発生動向調査によると、5歳以下が全体の90%以上を占めます。

●主な症状 感染してから2～4日後に、突然の発熱に続いて、のどに痛みと水疱（すいほう）が現れます。発熱は1～3日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを起こします。一般的に経過は良好で、2～3日以内に回復します。

●治療方法 ヘルパンギーナに特別な治療方法はありません。基本的には軽い症状の病気のため、症状に応じた治療となります。しかしながら、合併症として、熱性けいれん、脱水症、小児ではまれに髄膜炎や心筋炎などが起こる場合があるため、経過観察をしっかりと行いましょう。

●感染経路と予防方法 感染経路は、主に経口感染（糞口感染：便と一緒に排せつされたウイルスが口に入って感染すること）、接触感染、飛まつ感染です。日頃から「手洗い・うがい」といった感染対策を生活習慣にすることが大切です。また、発症後2～4週間頃まで便からウイルスが排せつされるため、発症した乳幼児のおむつ交換を行う時は、排せつ物を適切に処理し、流水と石けんでしっかりと手洗いをしてください。

このような症状がみられた場合は、医療機関への受診をご検討ください。

- ・高熱が出る
- ・発熱が2日以上続く
- ・嘔吐する
- ・頭を痛がる
- ・視線が合わない
- ・呼びかけに答えない
- ・呼吸が速くて息苦しそう
- ・水分が取れずにおしっこがでない
- ・ぐったりとしている



定点 種別	疾患名	状況	24週(6/9～6/15)		25週(6/16～6/22)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	—	15	0.6	8	0.32
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		27	1.08	26	1.04
	急性呼吸器感染症(ARI)		1381	55.24	1348	53.92
小児科	RSウイルス感染症		1	0.06	0	0.00
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	7	0.44	4	0.25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	22	1.38	19	1.19
	感染性胃腸炎	—	83	5.19	83	5.19
	水痘(みずぼうそう)	—	3	0.19	3	0.19
	手足口病	—	5	0.31	3	0.19
	伝染性紅斑(りんご病)	—	19	1.19	17	1.06
	突発性発しん		20	1.25	9	0.56
	ヘルパンギーナ	—	2	0.13	10	0.63
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	1	0.06	1	0.06
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	9	1.80	10	2.00
基幹	細菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		12	2.40	9	1.80
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	1	0.20

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし